

感染症発生動向調査委員会報告 9月

今月のトピックス

麻疹報告数は引き続き減少していますが、第3期、第4期の予防接種率はそれぞれ41.4%、28.6%と低水準で、依然集団感染等のリスクがあります。未接種者に接種勧奨をお願いします。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病の今後の発生動向に注意が必要

【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点：88か所、内科定点：57か所、眼科定点：18か所、性感染症定点：26か所、基幹(病院)定点：3か所の計192か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症とを報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

平成20年 週 - 月日対照表

第34週	8月18～24日
第35週	8月25～31日
第36週	9月 1～ 7日
第37週	9月 8～14日
第38週	9月15～21日

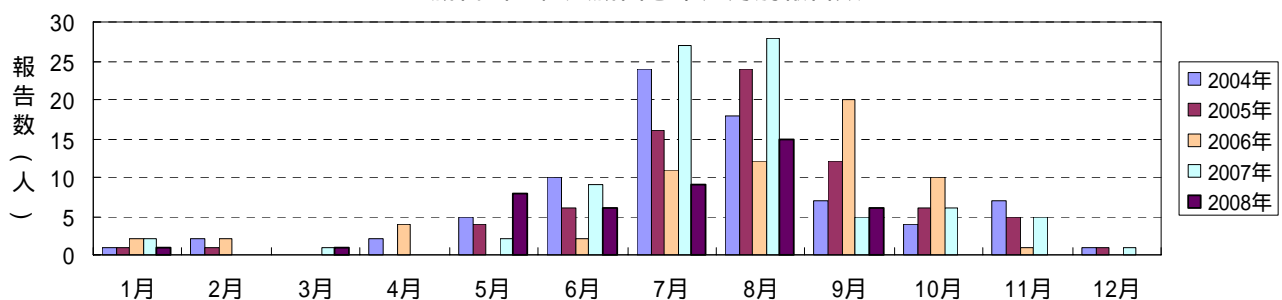
平成20年8月18日から平成20年9月21日まで(平成20年第34週から第38週まで。ただし、性感染症については平成20年8月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

全数把握の対象

< 腸管出血性大腸菌感染症 >

9月の報告数は、25日現在で6例です。うち、無症状病原体保有者が3例です。年齢の内訳は、10歳未満が1例、20代が1例、30代が1例、50代が1例、60代が1例、70代が1例でした。

腸管出血性大腸菌感染症月別報告数



啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf> も合わせてご覧ください。

<レジオネラ症>

9月は25日現在で4例の報告がありました。1月からの報告数は21例となり、多かった昨年とほぼ同じペースです。全国でも、第38週までの累計は654例と、かなり多くなっています。(表参照)

レジオネラ症の報告数の年別推移(2000年～2008年38週)

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
全国	154	86	167	146	161	281	514	665	654
神奈川県	2	2	4	6	6	19	26	43	37
横浜市(再掲)	0	0	3	2	1	8	7	28	21

レジオネラ症については、平成15年4月より、尿中レジオネラ抗原検査が保険適用になり、診断が迅速に出来るようになりました。しかし、レジオネラ肺炎は、早期に適切な治療(マクロライド系、ニューキノロン系、リファンピシンの投与等)を行わないと、症状が急激に悪化したり、致命的になる場合があります。高齢者や、糖尿病などの基礎疾患がある人は注意が必要です。また、肺炎患者においては、循環式浴槽やジャグジーなどの入浴施設の利用を確認する事も必要と思われる。

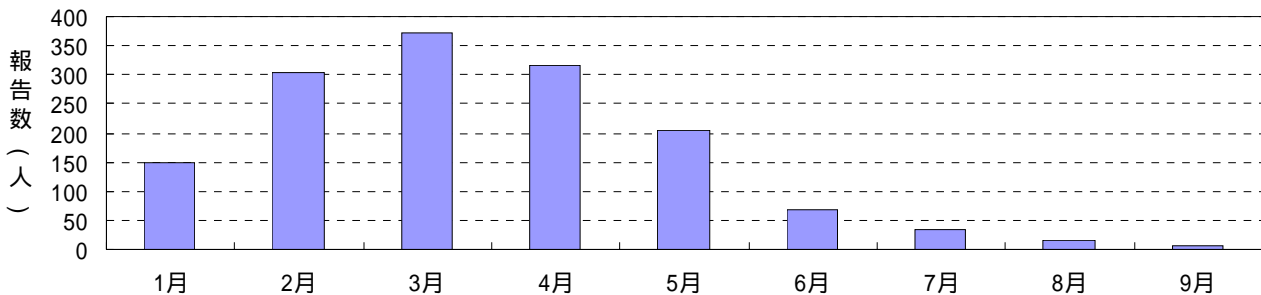
<麻疹>

1月から感染症法の5類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

横浜市では、第38週(9/15～21)までの累計報告数は1466例で、全国の報告数10794例の13.6%です。最近5週間(第34週～第38週)の報告数は9例で、全国の報告数132例の6.8%となっています。年齢別では、約半数が10代で、予防接種前の0歳にも多く発症しています。また、全体の約半数が予防接種未接種でした。

平成20年4月1日から6月30日までの第3期、第4期の予防接種率は、それぞれ41.4%、28.6%でした。

麻疹月別報告数



2012年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1歳～高校3年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。横浜市の詳細については、「横浜市における麻疹患者届出状況(2008年)」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

《日本は、2008年～2012年の5年間で、麻疹排除を目指します》

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握

1歳および就学前1年間の、麻疹風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底

5年間に限り、中1及び高3相当の年齢の者への定期接種を実施

定点把握の対象

<インフルエンザ>

8月下旬に市内の全寮制の訓練校でインフルエンザの集団発生がありました。有熱症状を訴えた者は20歳代男性を中心とした45名で、検体を採取した5名からA香港型が検出されました。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

今シーズンは過去6年間で最も高い値で推移していましたが、第34週は定点あたり0.21と例年並みになりました。その後少し増加し、第38週は定点あたり1.00でした。行政区別では港北区(4.17)、栄区(3.00)が高くなっています。例年、冬季にもピークが見られるので、今後の動向に注意が必要です。川崎市は1.16と横浜市より高く、神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.86、全国は0.81でした。

<手足口病>

第30週に定点あたり4.01とピークを迎え、その後減少しましたが、第36週は定点あたり2.50と増加しました。第38週は1.78です。行政区別では、中区(5.00)、港北区(4.67)、港南区(3.50)となっています。秋に小さな流行が見られることがありますので今後の動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.09、川崎市は1.47、全国は1.29でした。

<性感染症>

性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

8月は、7月に比べて性器クラミジア感染症はやや減少傾向、淋菌感染症はやや増加傾向です。19歳以下の若年層については、男性はありませんでしたが、女性は性器クラミジア感染症で2例見られました。

【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:5か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

衛生研究所から

<ウイルス検査>

2008年9月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点は23件(鼻咽頭ぬぐい液)、基幹定点は3件(咽頭ぬぐい液1件、髄液2件、血液1件、便1件)でした。患者の診断名別内訳は、小児科定点は上気道炎14人、気管支炎2人、手足口病2人、ヘルパンギーナ2人、流行性耳下腺炎1人、胃腸炎1人、発疹症1人、基幹定点は無菌性髄膜炎1人、無熱性けいれん1人、急性心筋炎・急性肝炎1人でした。

10月10日現在、小児科定点の上気道炎患者1人からアデノウイルス、ヘルパンギーナ患者1人からエンテロウイルス71型が分離されています。これ以外にPCR検査では、小児科定点の上気道炎患者2人からコクサッキーウイルスA2型(1人)とコクサッキーウイルスA10型(1人)、手足口病患者1人からコクサッキーウイルスA16型、ヘルパンギーナ患者1人からコクサッキーウイルスA6型が検出されています。また、基幹定点の無菌性髄膜炎患者の検体(髄液)からは、コクサッキーウイルスA16型が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

<細菌検査>

9月の感染性胃腸炎関係の受付は6菌株で腸管病原性大腸菌が2件、腸管出血性大腸菌1件が検出されました。溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は1件でA群溶血性レンサ球菌が1件検出されました。

【 感染症・疫学情報課 検査研究課(細菌担当・ウイルス担当) 】